

第51回全国公立小中学校事務研究大会
(岡山大会) 参加報告

第9次研究中期計画の初年次となる岡山大会は、テーマを「ビジョンを実現する学校経営戦略」として、2日間の日程で



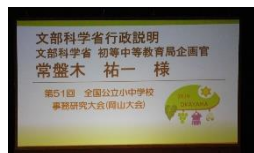
全体会会場である岡山シンフォニーホールで幕が開けられました。1日目は文部科学省初等中等教育局企画官 常盤木 祐一 氏による行政説明と全体研究会Ⅰが行われました。2日目は、午前中に本部研究分科会と7つの分科会が各会場で行われ、午後は全体会会場に集まり、全体研究会Ⅱとして、各分科会担当者から討議の成果や課題についての報告と全体研究会Ⅰの内容や各分科会での討議を踏まえてのシンポジウムが開かれました。大会速報によると、全国から2,363名、福岡県からは86名の参加があったとのことでした。概要は以下のとおりです。なお、概要は大会速報を参照させていただきます。

文部科学省行政説明

文部科学省初等中等教育局企画官

常盤木 祐一 氏

現在の教育行政を取り巻く状況及び最新の文部科学行政の方向性について話がありました。



○学校における働き方改革について

平成28年度の教員の1週間当たりの学内勤務時間が、平成18年度の調査に比べ増加しており、この

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

事務局 嘉麻市立山田中学校
TEL 0948-52-0077
FAX 0948-52-0177
発行人 吉 備 昌 彦

状況を改善するため、次の3点を中心とした働き方改革に取り組んでいるそうです。それは「学校及び教師が担う業務の明確化・適性化」、「学校における働き方改革の実現に向けた環境整備」、「改革の確実な実施のための仕組みの確立とフォローアップ」とのことです。

○教育の情報化の推進について

学習指導要領の改訂を受け、情報活用能力の育成とICTの活用を図ることになり、「学校のICT環境整備に係る地方財政措置」、「遠隔教育の推進」等の施策を検討実施しており、また、先端技術を効果的に活用した学びのあり方を示すそうです。



○新学習指導要領について

小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新学習指導要領が完全実施され、そのなかで「何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか」を基に社会に開かれた教育課程の実現を目指すそうです。また、このような大きな転換期を踏まえ、事務職員として財務の観点からカリキュラム・マネジメントに参画し、共同学校事務室等で学習環境整備に取り組んでもらいたいとのことでした。

○いじめ対策・不登校支援・児童虐待対応について

文部科学省でも取組を強化しており、学校において保護者・地域の窓口である事務職員として何か気づきがあれば、教員との情報共有を密にし、子どもを見守っていただきたいとのことでした。

そのほか「特別支援教育の推進について」、「地域と学校の連携・協働について」、「マイナンバーカー

ドの取得に向けた取組について」、「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の話がなされました。

最後に、事務職員は学校組織の中で唯一の行政職員という貴重な存在で、「つかさどる」とされている部分で何ができるかを見つめ直し、学校でリーダーシップを発揮してもらいたいとの話をされ講演は終了しました。

全体研修会Ⅰ

大会テーマである「ビジョンを実現する学校経営戦略」のもと、第Ⅰ節ビジョンを実現する新たな学校、第Ⅱ節学校経営におけるビジョンと戦略、第Ⅲ節ビジョンと戦略における事務組織、第Ⅳ節学校経営ビジョンを実現する事務職員が提案されました。助言者として、国立教育政策研究所初等中等教育研究部副部長・総括研究官の藤原文雄氏と岡山市立京山中学校校長の天野和弘氏が登壇されていました。



第Ⅰ節では、社会情勢と子どもを取り巻く状況、これからの学校の姿について話がなされ、社会が変わり学校の在り方も変わるなかで、これまでとは違う学校経営ビジョンと戦略が求められていることが提案されました。

第Ⅱ節では、子どもの学びのために地域の経営資源を強みとした事業の展開が学校づくりと地域づくりの好循環を生み出す戦略であると提案されました。

第Ⅲ節では、地域学校経営ビジョンの策定における事務機能、戦略の立案における事務機能の話がなされ、共同学校事務室を中心とした経営資源計画の策定、ビジョンと戦略にかかわる取組の改善を図りながら当事者意識の醸成を促す参加型評価について提案されました。

第Ⅳ節では学校経営ビジョンを実現する事務職員・共同学校事務室の役割、事務職員の専門性と資質・能力、事務職員の力量形成とキャリア形成の在り方について提案がありました。

最後に事務職員が学校経営ビジョンの策定にかかわり学校経営戦略を立案することで教育の質を高めることができると提案されました。

全体研修会Ⅱ

全体研修会Ⅱでは、初めに各分科会での討議内容や今後の研究課題等について分科会担当者から報告がなされました。その



後、全体研究会Ⅰの内容や各分科会での討議内容を踏まえ、「次世代の学校をマネジメント」を基盤とした第9次研究中期計画の第一歩として、「ビジョンを実現する学校経営戦略と事務職員」をテーマに3名のシンポジストにより意見が交わされました。その3名は、国立教育政策研究所初等中等教育研究部副部長・総括研究官の藤原文雄氏、岡山県玉野市教育委員会教育長の石川雅史氏、全事研研究開発副部長の小式澤 絹江氏でした。論点は新たな学校の在り方、法改正から2年半を経過しての検証、ビジョンを実現する学校経営戦略と事務職員の3つに絞られ、各分科会担当者からの意見も交えながら、事務職員への意見やエールが送られました。

藤原氏は、事務職員は情報を調達・開発・活用するリソースマネージャーとして貢献できる。これからはリソースマネージャーとして、高度先端技術の活用ができる資質能力の向上が望まれる。校務の効率化が進むなか、事務職員は情報の視点からの新たなリソースを獲得してほしいとの話しがなされました。

石川氏からは、地域協働の視点から、事務職員は地域の資源を把握し得る職であると改めて感じた。地域の資源を教育資源にしていけるよう、協働を担う事務職員の変革を期待している。また、共同学校事務室で新たな資源を開発し、その開発方法を共有することは大切であるとの話がなされました。



小式澤氏からは、共同学校事務室は、単なる事務

の共同ではなく、地域学校経営のマネジメント機能を有する組織、事務局的作用を担う組織として発展することが必要になるだろう。また、「つかさどる」事務職員を財務の視点から考えると、公予算の要求・執行、地域の資源の「見える化」、預かり金業務の改善など、小中の連携も取りながら、学校経営に貢献していきたいと考えているとの話がなされました。

参加者の感想

○10年ぶりの全事研の参加で事務職員の取り巻く状況も大きく変化していました。



つかさどる職となった事務職員として、学校経営をより機能的で強固なものにするため今後、学校・家庭・地域の協働によるビジョンを作成し実現するマネージメント力の必要性が高まっていくと感じました。(30代男性)

○全事研は岡山大会が初めての参加になります。事務職員の学校経営参画の必要性とその意味を考え、ビジョンの実現と学校経営戦略に果たす事務職員の専門性、共同学校事務室の役割を学ぶために参加しました。

正直な感想としましては、難しい内容という印象でした。1日目午前の文部科学省行政説明では、学校における働き方改革等計8点に触れ、国の情勢の情報を得ることができました。午後からは全体研究会Ⅰでは第Ⅰ～Ⅳ節まであり、助言者である国立教育政策研究所の藤原氏と京山中学校校長の天野氏の御意見があったように思われます。特に藤原氏が述べていた、今後の事務職員は「リソースマネージャー」という視点が大事であり、教員の「ソフトウェア」的視点とは異なる方向性で学校に携わるべきという内容が印象深かったです。学校事務職員の子どもの幸せを考えるロジックモデルや、未来を創造し今を考えるバックキャスト思考など、全事研でしか学ぶことができない理論研究ができました。

2日目の分科会では、第5分科会へ参加し学校教育目標を達成するために、マンダラシートを作成し

て課題整理を行いました。全国の事務職員の方々と学校や仕事内容を話し合うことで業務への新たなヒントを得ました。

「子どものことを想って仕事に取り組む大切さ、子どもの幸せに通ずるかを常に考えること」、変革期だからこそ改めて考えたいと思いました。(20代男性)

○今回の岡山大会のテーマが「ビジョンを実現する学校経営戦略」ですが、今まで学校経営に関わるという意識は無かったので、どのように関わっていけば良いのか勉強したくて参加しました。分科会で他県の方とお話しをする機会があり、悩んでいるのは私だけでは無いことを改めて知ることができて、とても心強かったです。

まずは身近なことから関わっていくことができるということも知ることができたので、実践してみようと思いました。(20代女性)



○3年ぶりに参加した全事研大会でしたが、全国的には3年前よりさらに事務職員の学校運営参画が進んでいることを実感した2日間でした。

全体研究会では「ビジョンを実現する学校経営戦略」をテーマに、ビジョンを実現する学校には①学校経営ビジョンの策定、②学校経営戦略の創造、③学校組織文化の醸成が求められるとし、それぞれに必要な事務機能を果たすための事務職員の在り方を示され、「事務職員が学校経営ビジョンの策定にかかわり、学校経営戦略を立案することで、教育の質を高めることができる」と提案されました。

第7分科会(岡山支部)では、岡山県は福岡県と同じく政令市と県域に分かれているので、それぞれに発表されました。個人的には岡山市の「アクションリサーチ(実際に行われている日々の業務の中で問題点や課題を見つけ、その改善に向け研究・実践することで解決し、そこから得られた成果を全体へ還元することで全体の質を高めていく調査研究)」が非常に参考になりました。福岡県でも福事研を中心に、アクションリサーチをして、県内の

事務の標準化・高度化がしていけたら良いのにと
思いました。(40代女性)

○私は第3分科会(鳥取支部)に参加したので、その内容についての感想を報告します。

まず、「とりビジョン」(鳥取県版グランドデザイン)についてですが、平成21年度版は「トータルプロデューサー」を目指す事務職員像として取り組まれたが、会員全体の共通理解が得られなかった。そこで、会員への問いかけ、双方向コミュニケーションを繰り返す中で、会員の総意により、「協働と連携により学校教育目標の実現に貢献する事務職員」を掲げ、職位ごとに役割を示した平成26年版とりビジョンを策定しました。特筆すべき事は、このとりビジョンを基に、鳥取県教育委員会が「鳥取市町村(学校組合)立学校事務職員の人材育成、能力開発に向けた基本方針」を示しました。

翻って、福事研は平成27年度に「とびうめマップ」(福岡県版学校事務の長期ビジョン)を策定しました。しかし、共通理解どころか認識もされていない実態があるかも知れません。福岡県内の各自治体によって職務内容が異なるために、議論がかみ合わない部分も大きいと思いますが、「事務をつかさどる」、「共同学校事務室」等の外的変化が起きている今こそ、鳥事研に倣って「とびうめマップ」を会員の総意によって見直しを行うチャンスの時かなと思いました。

次に、この分科会のテーマである「人材育成」をどのようにして行うかという事ですが、分科会の発表では4名の若手事務職員(経年3~10年くらい)の「転機はここだった」という実践の報告がありました。以下ポイントだけ列挙します。

- (1)「やってみよう！」の後押しは先輩事務職員への信頼感、安心感
- (2)先輩事務職員のかかわりの重要性
ポイントは「主導」ではなく「サポート」
- (3)先輩事務職員の姿
信頼される姿は自然に身につくものではない。
自身の成長を振り返り、課題を認識し、責任を持って主体的に行動し続けた結果である。

(4) 若手事務職員の成長

達成感、満足感 → 次へのエネルギー
後ろ姿を見せられない私にとっては少々耳の痛い話でしたが、やはり人間を成長させる一番のポイントは、出来ないかも知れないという不安感を抱えながらも「やってみよう！」と新たな業務に挑戦する事だと思いました。

最後に、分科会で発表された方の成長のきっかけになったのは、共同実施での役割を担ったり、鳥事研の役員を引き受けたことでした。やはり人は組織の中で育つのだと思えました。(60代男性)



第22回九州地区事務研究会役員研修会

標記の研修会が下記のとおり開催されました。概要をお知らせ致します。

期 日 令和元年9月6日(金)

13:30~17:00

参加者 九州地区の事務研究会役員

場 所 熊本市「桜の馬場観光交流施設」

内 容

- 1 開会及び日程説明
- 2 開催県挨拶(熊本県:宮崎会長)
- 3 地区委員長挨拶(福岡県:吉備会長)
- 4 各県自己紹介
- 5 議事(議長 福岡県:吉備会長)
 - ①各県の研究大会日程及び研究課題等について
 - ②全事研に関連する課題について
 - ・令和6年度~8年度のいずれかの年の主管(開催)支部について
 - ・令和4年度愛媛大会分科会発表について
 - ・全事研九州地区委員長報告・連絡
 - ③当面する共通課題について
 - ・法改正(つかさどる、共同学校事務室)に伴う各自治体の動き等について
 - ・CSの導入状況と事務職員の関わり
 - ・小中一貫教育、義務教育学校等の導入状況と事務職員の関わり
 - ・共同実施、共同学校事務室、事務センター導入状況



- ・事務長制の導入状況
- ・事務職員に係る任用制度について
- ・政令市における事務職員制度

「学校事務職員の強みはどこにある？」

「どう活かす？」

文部科学省大臣官房会計課長

木村 直人 さん

○今後の各県の研究会の予定



鹿児島県

第40回記念 研究大会

- ・期日 令和2年1月16日(木)
～17日(金)

- ・場所 かがしま県民交流センター

宮崎県

第56回研究大会

- ・期日 令和2年1月24日(金)

- ・場所 新富町文化会館

熊本県

第44回研究大会

- ・期日 令和2年1月24日(金)

- ・場所 くまもと森都心プラザ 他

北九州市立学校事務研究会

第13回研究大会

- ・期日 令和2年1月31日(金)

- ・場所 北九州市 ウェルとばた

※長崎県は6月24日に第20回セミナーを、佐賀県は11月1日に第45回研究大会をそれぞれ開催しています。

② 分科会

【第1分科会】／パネルトーク形式

「新しい時代へ、“温故知新”の精神で

新しい事務職員の第一歩を!!」

午前の講演に引き続き文部科学省木村課長を交えて参加者全員で交流していきます。

【第2分科会】／連続ミニレクチャー形式

「校外の人からビジネスの話を聞こう～営業マンの存在から財務マネジメントを考える～」

営業研修の専門会社の方を迎え、購買という

生活に密着した題材から学校事務を考えます。

【第3分科会】／協議系ワーク形式

「“やってみたい!” “解決したい!”

を実現する作戦会議」

働き方改革や業務改善等、同じ事務職員同士で具体的な手立てを考えてみませんか?

【第4分科会】／想定判断力ワーク形式

「今からここは避難所です!

～緊急時における学校のあり方を学ぶ

体験ワークショップ～」

災害時に学校ができること、事務職員ができること緊急時の対応について体験しながら学びます。

【第5分科会】／作業体験ワーク形式

「“とにかくがんばる”はもう卒業しよう

～“できる”を見つける

認知と行動のアプローチ～」

認知と行動の簡単なワークを通じて、一人ひとりの「できる」を見つける方法を体験します。

【第6分科会】／連携協働ワーク形式

「専門家とつながって学校の悩みとサヨウナラ

～学校事務職員から見えるSCとSSWの役割～」

様々な問題が起きている学校で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと事務職員がどうつながることができるのか考えていきます。

※申込期間

12月4日(水)～1月10日(金)

福事研ウェブサイトから申し込み
手続きを行ってください。

**福事研設立20周年記念大会
兼 第22回研究大会の案内**

1 大会テーマ

「大人も学ぶ学校をめざして、
アンテナを広げる学校事務職員」

2 目的

これからの公教育がめざす方向性の中で、学校事務職員が果たすべき役割を確認するとともに、各地区の事務実践の交流を通じて、県内学校事務職員の課題と展望を考えます。

3 期 日

令和2年2月7日(金曜日) 受付9時30分～

4 会 場

都久志会館(福岡市中央区天神4-8-10)

5 内 容

① 記念講演